

繫 間 録

甲 冑 之 卷

三

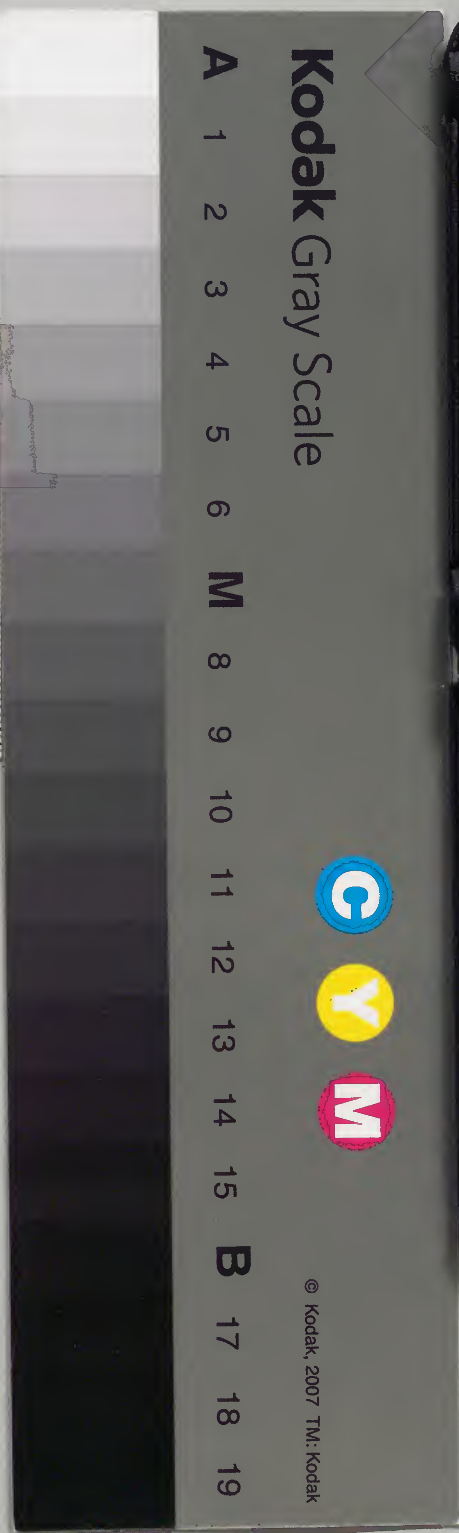
外 書 類

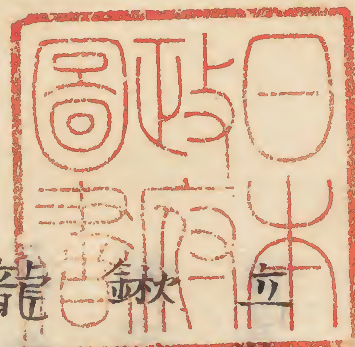
武 備 兵 法

和 書 門			
一	二	六	七
號	函	冊	架
二	五	冊	架

內 閣 文 庫			
一	七	二	七
函	冊	號	類
五	四	二	五
架	冊	號	類

內 閣 文 庫	
番 號	和 17267
冊 數	25 (4)
函 號	154 24





繫問錄第三

甲曹之卷上三

因品

大野又兵衛一貫口述
大野路之即一德圃書

淺草文庫

物五方

形前立

龍頭前立

獅嚙前立

高角立

天衝

也或須留理
下或須留理

目下類

半類

媧類

燕尾

猿類

蛇類

天狗類

植毛類

帛類

以上三十三箇條

本ノ文ノ餘
ナル目録
ルベキ
者セキ
アリ私取捨
入

一 前豎物脇立物定制ナシトイヘトモ脇へ廣
キハ太刀打ノ時害アリ上へ高キハ物ニ支
障ハル矢アリ頭豎モノハ茂ミヲクブルニ
惡シ鳥羽ヲ以テ造リタルハ輕シトイヘト
モ火ノモ卫付易キ矢アリ唯小ク輕ク他ノ
能ク見知りテ何ト云フモノナリト知り安
キヲ用ユベシ或ハ水酒ヲ吞器筆筒等ニ兼

用エル類イノ豎物必ス用ユベカラズ急更
害多シ
貫曰立物ハ前後左右中ノ五方ニ立事
ナリ。但正面ヲ以テ本用トス。餘ハ轉用ナリ。
此物元來軍ヲ分ベキ爲ニシタル物ナル
ベケレド。古代其證據トスベキ事多カラ
ズ。且勇威ヲ示ベキガ故也。其驗トシタル
事ハ。太平記ノ頃ヨリ見ケリ。其一ニヲ舉
ニ參考太平記ニ桃井ガ扇一揆ノ中秋山

新藏人光政。鍬形ノ間ニ紅ノ扇ヲ月日出
シタルヲ。殘サス。開テ將軍ノ花一揆。梅花
一枝折テ。其ノ真向ニサシタルハ。ト見タル
ハ。迺是也。是ハ兼テ儲ケタル立物ニハ有リ。サ
用タルハ。又近世相璽ニ用シハ。陰德太平
記ニ三浦ガ子ノ者共。一様半月ノ阜物ニ
タル頭蓋ヲ著トアリ。彼是ニテ相驗トシ
タル證ヲ知ベシ。其外近世大祿ヲ將。名譽
ハ士ナドニ立物。僅ニ揚之ニ。武邊咄聞書

北越軍記ニ秀吉公ノ八月ノ曹ハ後立
物也。黒田長政隠モナキ。例ノ水牛ノ甲^{カブト}
リ。水牛ノ角本。フスベ皮ニテ結付ナリ。福
嶋正則ノ四股鹿ノ角。伊達政宗ノ三日月
ノ立物。直江山城守カ馬蘭。後藤又兵衛政
次カ。頭形ノ甲^{カブト}。孔雀ノ引廻。五尺ツ。出
シタル。銀ノ天衝ノ割立物。日根野織部カ。
唐冠ノ曹。鐘馗ノ耳貳尺五寸脇立也。河瀬
平左衛門カ。天衝ノ曹。徳永左衛門カ。三本

菅蒲ノ甲^{カブト}。固野左内カ。角榮螺ノ曹^{カブト}。ソボ
ロノ立物ナド。観タリ。其外近世ノ軍記ニ
出タル所。擧之。ニ違アラズ。仍テ茲ニ贅^{ツギ}
セズ。右ニ出シタル。高位名譽ノ將士ノ所
用ハ。全^レ勇威ヲ示タル立物多カラシ。相驗
ニシタル事。右ニ書ノ文中ニ不見。當元來
堅物ハ其家々ノ依^テ軍法一隊一軍ノ合印
トシテ。或^レ其定制ノ餘ニハ。異相ノ立物ヲ
モ用テ。勇美ヲ顯^スノ類品無量ナリ。亦古代

二八。歛形。龍頭。獅子頭。高角十トヲ。立物ト
シタリ。其趣ハ参考保元物語歛形ノ三郎
伊行。下野守義朝。六條判官爲義等著之。龍
頭ノ飛ハ鎮西八郎爲朝著之。高角ノ飛ハ
惡著之。別参考平治物語歛形ノ飛。左馬頭義
當著之。朝守藝守清盛等著之。龍頭ノ飛ハ
佐重盛著之。高角ノ飛ハ惡源大義平著之。
平家物語歛形ノ飛。木曾義仲。越中次郎實盛。九郎
嗣。三位中料重衡。無官太夫敦盛。能登守教
經。等著之。高角ノ飛ハ足利又太郎思綱著
之。源平盛衰記歛形ノ飛。木四郎高細。長瀬判官
代義貞。九郎判官義經等著之。亦義經曰リ
小林新五郎行二所賜ノ飛銀ニテ歛形打

タル。龍頭ノ甲トアリ。又那須與市ガ飛ハ
鷹角反甲ト記テタリ。又ソルトト假名付
高ノ字トリ。ハ高角トスルベシ。鷹ハ借字
ツノト訓テ可ナリ。通盛表記和註ニハ
カツノト打タレト記セリ。勘ベシ。總テ此盛
表記ハ文字假名ノ謬多ク書トリ。又彼鷹
角反甲ニハ伊勢氏ノ説アリトモ。總テ此盛
ヲレバ爰参考太平記歛形ノ飛。大塔前座
主官荒尾彌五郎名和又太郎長高大高二
郎車成。佐々木筑前守顯信。杉本山人太夫
定範。粟生左衛門。畑六郎左衛門。時能。篠塚
伊賀守。阿間。願。秋山新藏人光政。脇谷義
治。長尾彈正。土岐惡五郎。長山遠江守頼基。
福間三郎。小里兵庫助。日吉八郎等著之。其
外盛兼。粟生左衛門。篠塚。伊賀守。阿保肥前

守忠實。長山遠江守賴基。新田左衛門佐義
 興等著之。其外ニ見タリ。獅子頭ノ把ハ
 田中藤九郎盛兼。野木與一兵衛入道賴玄。
 長山遠江守賴基等著之。其ガ中ニ長山
 遠江守賴基ハ。徑リ三尺許。大日。凡打
 タル。缺形ノ塊ノ緒ヲシメ。内幡。國住人福
 間三郎三。缺形打タルナドニ見タリ。又十
 飛ヲ猪頸ニ著ナリ有。ナドニ見タリ。又十
 界。画。後三年合戦画。一谷合戦画。ナドニモ
 所見アリ。是等ノ事。論辨アリト雖。悉之
 卷愚評ニ譲テ。爰ニハ洩シヌ。左ニハ予ガ
 及。算タル所ノ粗ノ圖ヲ出ス。餘ハ推テ考
 知スベキモノナリ

缺形前立物



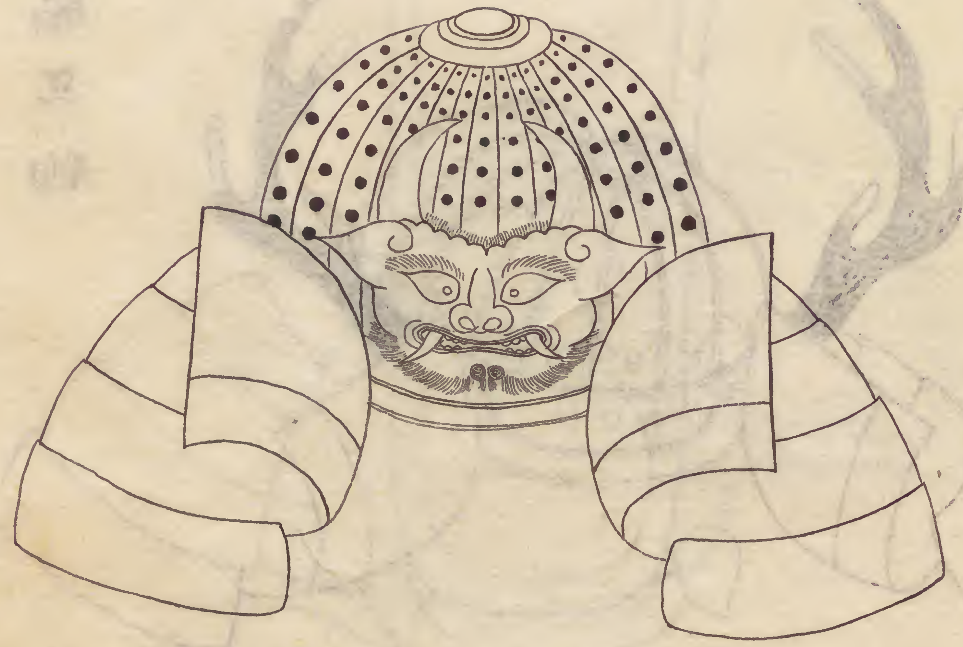
缺形減金銀焼
 付真鍮ノ類ヲ
 以テ製ス近代
 異ナル及テ
 ハ下地鯨或木
 或草ニ作テ
 金銀ノ箔濃或
 朱黒ニモ塗テ
 リ巖嶋社藏ハ
 幡太郎義家ノ
 此物ナリ其
 形既前章録
 ノ條ニ祖出タ
 リ互見スベシ

龍頭前立物



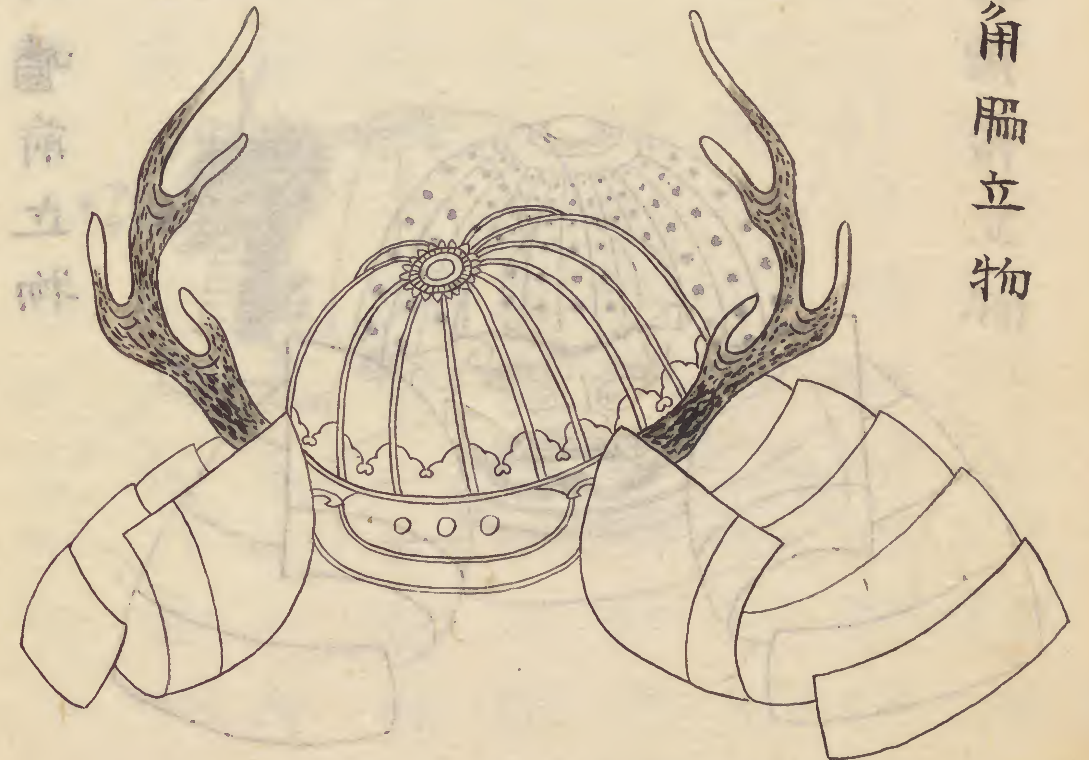
龍頭下地木ニテ
 造金銀ノ箔濃五
 色下トニ塗ヲシ
 テ彩色眼ニハ水
 精ヲ入レ或玉ヲモ
 水晶ニテ作或金
 箔ニモスルナリ
 口鬚ハ減金ニテ
 モスル定事ナシ
 髪ヲ植メルモ有

獅嚙前立物



獅嚙下地木
 銀ノ箔濃眼
 入ハ水精ヲ
 アリ髪ト鬚
 ハ獸毛ヲ植
 ル角牙齒十
 ドキモア有
 ナキモアリ
 一捺ナラズ

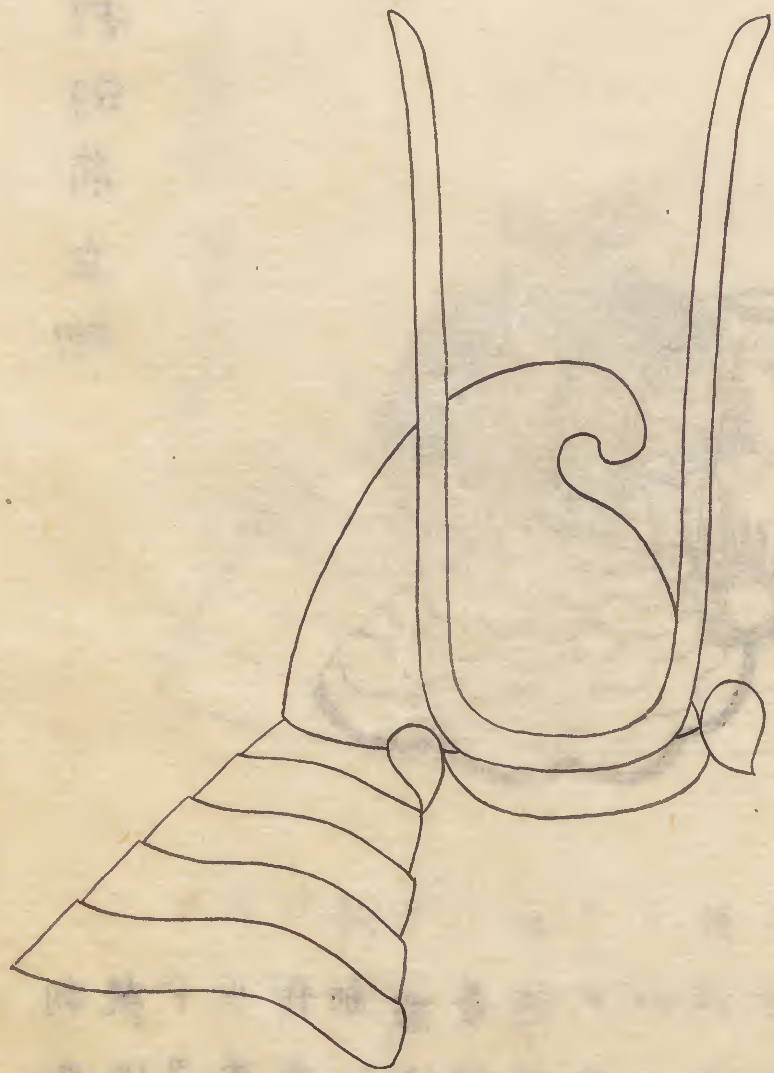
高角牒立物



鹿角立物

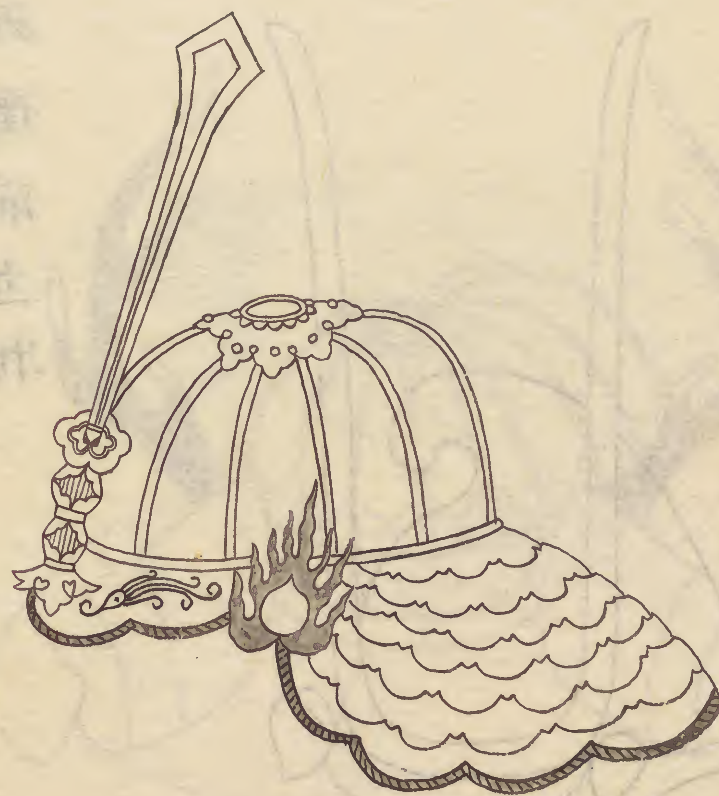
鹿角下地木
 角作リ地木
 銀ノ箱濃或
 金擢脱十ド
 又平ナルモ也
 ノハ練草鯨
 ノ類ニテ作
 父ノモヤリ
 大ニ思テ
 人ノ不
 鹿角立物

天衝前立物



天衝減金銀焼
 付鯨鱒或木草
 ナドニテモ造
 箱ニモ塗リモ
 スル事ナリ

利劔前立物



利劔。減金。銀
 燒。附。真。鍮。作
 ド。ヲ。以。テ。作
 ル。或。木。造。草
 柄。モ。ア。リ。又
 製。ハ。木。ニ。テ
 金。銀。ノ。多。シ
 禪。ノ。宿。濃
 ド。ア。リ。塗。十

曾布呂前立物



曾。布。呂。草。或。紙
 仕。ノ。濃。金。銀
 槩。再。苜。ル。ア。リ。不
 ノ。幾。枚。テ。細。キ。午
 が。如。シ。モ。束。ヲ。顯
 タ。ル。モ。ア。リ。如
 再。苜。中。ニ。テ。束。顯
 テ。表。ヘ。束。ヲ。顯
 ガ。ル。モ。ア。リ。又
 紙。手。ニ。シ。タ。ル。又
 ハ。至。細。ラ。可。ト
 ス。白。帛。ナ。ル。モ
 ア。リ。或。朱。ア。ド
 一。ニ。塗。タ。ラ。ズ。リ
 一。様。ナ。ラ。ズ。リ



牛角脇立物

牛角下地木
 製ス金銀ノ
 濃或米黒十
 塗或金權
 元モアリ



鐘魁耳脇立物

此立物長短
 不定形ノ以
 銅耳形ノ類
 或テ真鍮製
 或テ銀文等
 作其鍊草ハ
 金銀箔ヲ造
 色種々ニ染
 用或ハ牛毛
 折リ懸テ右
 ア折リ又右
 計アリ垂ル
 多モ異品

禿頭立物



ト好ミナノ禿
 知ニアド類立
 ベテリニヲ物
 シ精其テ用ハ
 粗人作工專
 アノレ或獸
 リ恰ル糸毛

平前立物

菖蒲前立物



菖蒲。金銀ノ燒附。
 莫。鍮ノ類ニテ作リ
 或。下地ヲ煉草。鯨。鱈ニ
 テ作。金。銀ノ箔。濃。或ハ
 種々塗也。指込ハ木造リ

半月前立物



半月減金、莫、鋤
 銀燒付類、
 製ス或煉草、木
 = 丁造金、銀、
 箔濃或朱塗、
 ト = スル

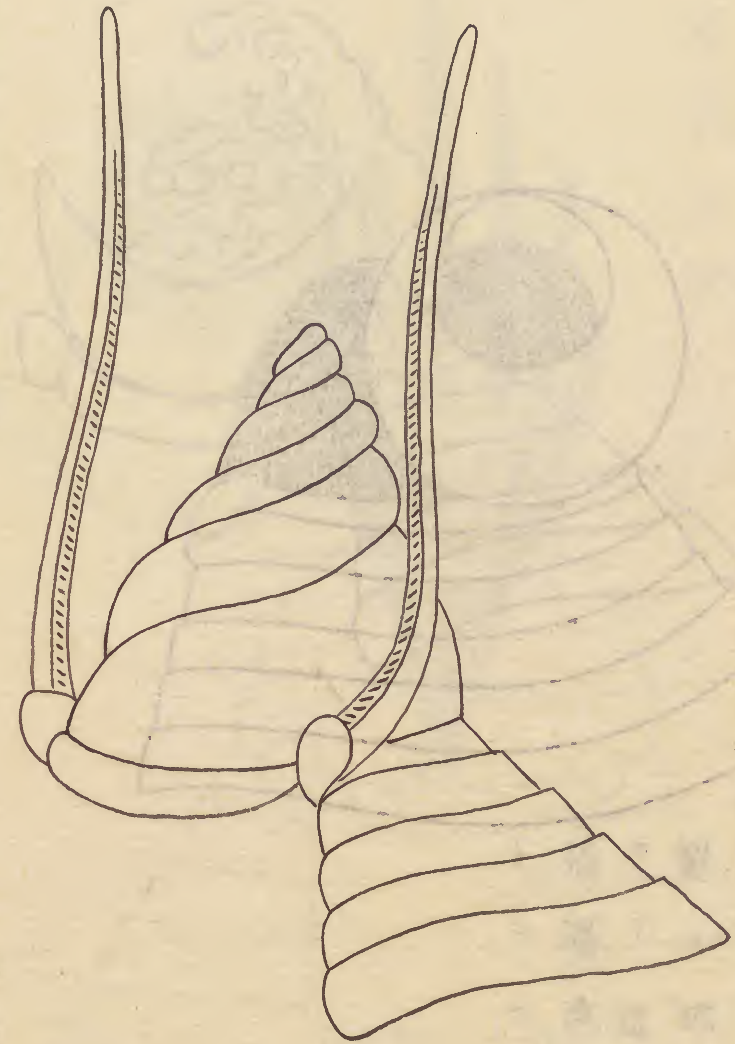
半月後立物



半月後立物

半月其製
 半月不異

水牛膈立物



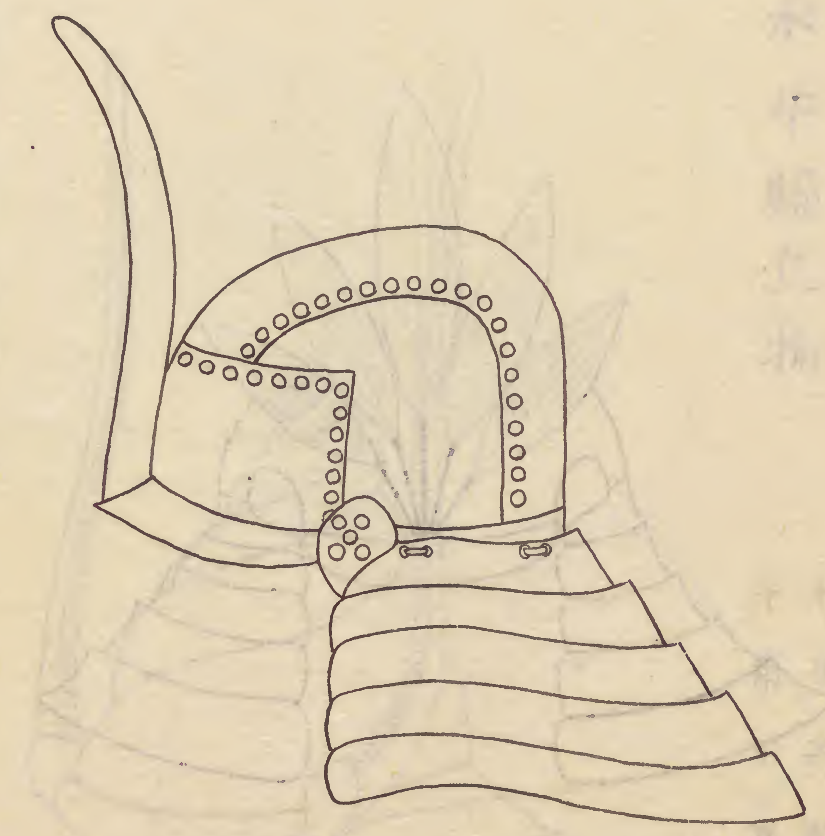
水一牛其一製
牛一角不異

馬蘭前立物



馬一蘭其一製
莖一蒂不異

犀角前立物



犀角其製
牛角不異

高野山立物

高野山立物

一貫曰。近世ノ立物。異形ヲ用。類ニ大立物
 アリ右ニ見ニ後藤ガ天衝ノ類。是等利用ニ闕知アレバ。
 最可有心得。既武隱叢話ニ津田長門入道
 道慶物語ニ云。日根野織部ガ唐冠ノ曹ノ
 立物鐘魁ノ耳。二尺五寸脇立也。但右ノ耳
 ノ立物ハ半分ヨリ折カ、リタル様ニス
 ル。太刀打ニ構故ナリト見ス。可考都テ
 此意ヲ用テ製作スベクニモノ歟。又一槩
 ニ泥ベカラナツム續武者物語ニ細川三齋江

戸上、下、ニ定テ。京都吉田ニ屋敷有テ。數日
逗留有。其刻鳥丸大納言光廣卿へ。振舞ニ
參ラレ。近國ノ大名ヨリ使者有テ。鳥丸殿
へ三齋ノ跡ヲ追テ來レ。是ハ曹ヲ一列^{ハ子}三
齋ノ物數奇ニテ。仕立度トノ使也。三齋注
文ヲ書セ被遣ニ。立物水牛ノ角。下地ハ桐
ノ木ト書付有之。使者申候。主人念入候
人ニ候。立物下地桐木ト御座候。物ニ當折
候處承申聞セ度ト有。三齋氣色變ノ様ノ

大立物ハ。折安キガヨシ。働ク時物ニ掛リ。
外ニ兼候時。折レタルガヨシト云。アイサ
ツ也。使者承リ折申候テハ。後日如何ト存
候ト申。三齋アサ笑ヒ給ヒ。兵ノ戰場ニ出
ルハ。生テ歸ラント不思法ナリ。立物折レ
ハ。後日如何トノ思察ナラバ。ニツトナキ
命ノ思察如何存ラレ候ゾ。働テ立物折レ
ラバ。猶見事可成。夕トハ折レタリトモ。後日
ニ何ニテモ可立。命ガ折レタラバ。何トカセ

ラレシ。ニツナキ命ヲ捨テ。働ク上ハ。立物、
 氣遣ハ無用也。只輕キヲ本ニシテ能クシ
 ト申カレ。其坐ニ居タル人。後ニ物語セシ
 ナリト見タリ。勇マレ哉此事。今ヤ泰平ノ
 結構ナルニ座スル。武士ノ物具ヲ好マレ見
 ニ。唯ニ無替ノ事。オ、然シテ。或、用曹祝儀
 虫乾等ノ時。床ニ飾置テ。見物ヲ事トシ。甚
 實事ニ踈キアリ。思慮セズニハ有ベカラ
 ス。又右ニ圖スル所ノ十六品ハ。予ガ及視

タル粗ヲ摸セシナリ。此餘異類異形掲テ
 計ニ違アラス。或、鋏形ニモ。起卧。廣狹。大小
 アリ。猪目ナキモアリ。猪目アルヲ花鋏形
 家鋏形ナド云ル俗稱アリ。是ハ龍頭ニモ。
 無替ノ臆説ニテ埒モ大キ事也。龍頭ニモ。
 無王。無足。大小ナドアリテ。一様ノ兎ニア
 ラズ。獅齒ニモ無角。無髮。無齒アリ。或、鋏形
 ナシニ獅齒ニ指入レ。鹿角ニモ一股二股三
 股四股ナド廣狹大小アリ。或、角先ヲ抱
 ト云。或、鹿角ヲ高角共云。軍史等ニ不之。或、
 是ニ異説アリ。徒安説ヲ可トス。諸獸ノ中

鹿麋ヨリ大ナル角無シ之依テ高角ト呼フ
 或此物ニ須留利角ト云アリ是麋ヨリ小
 角須留利角ト云也天衝ニモ開閉長短大
 小アリ利劍ニモ長短大小無柄アリ形或
 眞中ニ利劍ヲ立タルアリ曾布呂ニモ大
 是ヲ信玄歛形ト俗唱ス
 小多少定ラズ一束ニ限ニモアラス鐘魁
 耳ニモ大小長短端ノ上下ト定ナシ牛
 角ニモ長短大小アリ鹿ニモ多少アリ
 蒲ニモ莖ニ多少長短アリ半月割半月ニ
 モ大小アリ輪トモ云也水牛ニモ大小長

短アリ馬蘭ニモ多少長短大小アリ或莖
 顯ニタルモ左アリ葉形ト仕タルモア
 リ或右ニモ左ニモ葉ノ賜タル形ヲ並ヘ
 製シモアリ繁ク子トリ犀角ニモ一本二
 タルヲ捻馬蘭ト云トリ犀角ニモ一本二
 本大小長短アリ或後ハ衡キタルヲ前懸ナ
 云ト更ニ定タル事ニハアラス但獸角ノ類
 ハ一角ナル獸ノ立物ハ一角ヲ本トシ二
 角ナル獸ノ立物ハ二角ヲ本トスベケレ
 ドモ通俗定ナシト知ベシ凡テ右ニ出タ
 ル類下地ハ其品ニ仍テ異トモ銅眞鍮減

金銀。桐。朴。鯨。煉草。ナドノ類ニテ造リ。前後
 左右中ニ順テ。圓ニ全キモリ。應ズルア
 リ。片偏ナルモノ。應ズルアリ。金銀ノ箔
 朱青。黒。ナドノ塗色等ハ。固ヨリ一定アラ
 ス。或。兎ノ鉢ニ順テ。立物ニ心得アリ。又板
 立ニ應ズル立物アリ。角本ニスル立物ア
 リ。或。縮毒金ヲ以テ岩井伴八郎ハ此縮毒
 カラクリ立ル豎物アリ。或。鋏形ノ前立ト
 ルハ。臺輪ニ指入立ル又リ臺輪仕付モア
リ。或ハ角本ニ

ニテ留タルモアリ。或。麤首
 應用ニテ。製スル事肝要ナリ。思惟アルベ
 シ。又異品ノ立物ハ。其主ノ相驗ノ餘ニ自
 己ノ心ニ仕ル事ナレバ。何ニテモ用ベキ
 歟。但。本文ニ他ノ能見知テ。何ト云者ナリ
 ト。知。安キヲ用ベシトアル事。得タリトス
 ベシ。強テ異物ヲ好ベカラズ。唯ニ其人ニ
 因ルベキ事ナラニ熟味スベシ
 一貫曰。立物利害ノ事。本文ノ趣。一應ハ聞

へタルガ如、ナレドモ。埒モナキ事ニテ。信
ズルニ不足。イカニモ脇へ廣立物ハ。太刀
打ニ構フ事モアルナレバ。前云モ如、若、日
根、笠ガ、唐冠、兜、鐘、魁、耳。右ノ立物ハ。半分ヨ
リ折懸タル様ニスル。太刀打ニ構フ故、丁
リトアレバ。古人モ其得失ヲ考合セル事
アリ。但此鐘、魁、耳ト云ル物。倚ヲ以テ製、タ
ル物ニヤ。其製難知ケレバ。太刀打ニ構フ
モノト見タリ。只其利害ヲ差別スル事ニ

ハ。擬、トモスベケレドモ。其立物ノ製ニ仍
テ。脇、谷、廣立物タリトモ。太刀打ハ邪、魔ニ
ナラヌ物モ可有歟、且、太刀打ハ右ヲ順ニ
シテ。右ノ方ニ振、推、事專ニテ。正中ノ上段
ニモ。振、揚、モノナレバ。此心得ナクテ不叶
義ナリ。乍去甲、曹一縮ニタル。太刀打ノ論
ト。今日庭前ニオ井テ。劔術ノ法則ヲ勉、ル
事ノ太刀打ノ論ト。其心得亦人々ニ依テ
覺悟アルナレバ。一槩ニ難論。太刀打ニ構

立物ニ。是ヲ心得テ作タルハ。喻邪魔ニ
ナル立物ニテモ。活物ニ斗テ可ナリ。又太
刀打ノ邪魔ニテラヌ立物ニテモ。其人ニ
覺悟ナキ則ハ。死物ニテ其害去ルナク。
古烈士モ肺ハ廣立物ニテ此者。幾等モア
リ。既ニ前ニ出タル立物ノ中ニモ見タル。
又上ハ高ハ物ニ支障ル失アリ。頭豎物ハ
楸ヲ挑^ク惡^クト云事モ。其理ハ聞ハタル
ト云。是モ其理ヲ安坐ニテ論^クタル事ナ

レバ取ニ不足。古人モ高^ク立物セシ
事。既ニ前ニ見タルガ如^ク。是理論ノ外ニ。捨
ガタキ實用アル故ナリ。察セズニハ有レ
カラス。又鳥羽ヲ以テ造タルハ。輕ニト雖^モ
火燃付易キ失アリトアル事ハ。殊更小兒
ノ論ト可謂。抱腹ニ絶タリ。是亦古人引^ク旋^ク
ナドニモ。利毛ノ類ヲ用タル事數多アリ。
何程大ナル立物ニテモ。羽毛ヲ用ル事。引
旋ノ如^ク。多ハ不用事ナリ。假令是等ニ火燃

付タレバトテ。煩シキ程人事ニモ非素肌
タリトモ。其程計^{ハカ}レタル事ナリ。況甲冑ノ
上ニ於^テオヤ考^ベ。合戰イツモ火ヲ用ル
ニモアラス。笑^ハキ論ナリ。臨時其覺悟其
人ニアルベキ事ナリ。此利毛ノ立物ノ一
介條ヲ以テモ。徒ニ利害ニテノ論而已ヲ
諺^ヒベシ。水酒ヲ呑器。筆筒等ニ兼用^ル類
ノ堅物。必用^ベカラス。急事ニ害多^クハ聞
ヘタリ。凡テ兩用兼^ル事俗情珍奇ナリト

怡^イ懌^{エキ}スル者ナリ。是モ彼理論ノ類ニテ取
ニ不足事ナリ。本文得タリトスベシ。立物
ニ用タルモノヲ以テ。餘ノ用向ニ用ルハ。
本來實事ニアラス。急事ニ不限其理ノミ
ニ迷^ツ處。惜^ツケレバ其害アル事。大ナルト識
ベシ。此攸ハ武邊實事ナラバ。自然ト明量
ナルベシ。立物ハ小事ナリト雖^モ其心ノ迷
昧^{オシ}泰^{オシ}ナル害ヲ愁^ハベシ。都テ利害得失兩事
兼用ノ類。悉^シ今日^ニ安座ノ論ニシテ。戰場實

事ノ論ニアラス。克々替ヘシ。斯云。トテ。
戰場ノ人トテモ。頑愚知慮ナシ。筆ハカ、
ル事ニ迷惑スベケレト。又治亂ノ差別ア
ル事ナリ。彼是能々熟味スベシ。筆記ニ難
盡猶前章幾形得失ヲ論スル愚評ト互見
又ルベシ。ト云。其言ハ
一 請張リ深ニ寸布三重廻リサシニシテ鉢裏
ニ犬滑^スカ^ク力草ヲ寸文字ニ入ベシ。請張延
カル利アリ縮緬リ請張ハノビ易ク金箔ヲ

漆ニ置ニシテ付タルハ頭上スヘリテ曹ノ
固リ悪キ失アリ。ト云。其言ハ
一 貫曰。請張ト云物。得心氏ノ説ニハ。古代
ハ無之。鉢裏ヲ五倍子漆ノ草ヲ以テ。鉢裏
ニ直ニ漆張ニシテ。其端ヲ伸テ眉底ノ裏
迄ニ張^テ拭^クタリ。故ニ文字ニ請張ト可書。如
此今ノ浮張ト異リタル物ナレバ。頭頂鉢
裏ニ附テ煩ニキニ仍テ。此隔ニ蜘蛛附。忍
ノ緒ト云。物ヲ設テ。或ハ椽烏帽子邊縫加

キ物ヲ被リタルナリ。一貫曰。得心氏ノ説。頭巾ノ如キ物ヲ縮布ニテ造リ。是ヲ飛下被ル。ト云フ事アレドモ誤ナリ。邊縫ニハ非ス。縁塗ノ事也。縁塗トハ鳥帽子ノ一種ニテ。圓覆頭巾ノ如キ製ノ物ニハ非ズ。委往。鳥帽子ノ傳ニ記リス。今ノ浮張ハ一説ニ鎌倉殿ノ頃。京野小四郎ト云者。初創シタリト云リト演ラレタリ。案ルニ古代ニハ如^キ今世浮張ノナキ飛ヲ被リタル者。多カリシニヤ。南都。嚴嶋藏ナドノ飛ニモ。浮張ノナキアリ。又後三年合戦。画ニ縮ヲ曾ニ

懸テ被リタル飛見タリ。亦源平盛衰記小坪坂合戦ノ條。和田小次郎ト綴。太郎ト組討ニ。弓午ノカケナラ路付テ。甲ノテヘニニ午ヲ入。亂髮ヲ引仰テ。頸ヲ搔落ス。ト觀タリ。彼是ニテ考ルニ。今ノ浮張ト云フ物ハナキ事。臚ナリ。但軍器考圖式ニ。鞍馬寺藏義經朝臣曹。鉢前後指渡七寸五分。左右指渡六寸五分。深三寸五分。但浮張。迫ト縁タリ。此註文ニテ替ル則ハ。今製ノ如キ浮張

一、古代ニモ有タルト思ハル猶識ラレ人
 二、尋ベモ此義經ノ甲胃ニハ一貫臆説ア
 三、此物今ハ縮緬或布ナドニテ製
 集古圖説春日本談
 古ハ草ニテモ作ス議屋源義經朝臣焼
 註文ニ浮張アラハ草トアリ此浮張ノ製
 今様ト異ナルマ不詳前ニ引タル鞍馬寺
 藏形頭高ニ硯レ五分但浮張トアリテ其
 此所ニ出セル義經ノ兜ハ浮張アラハ草
 ト而已アレバ其製不分明ナリ最景衡ノ
 文例ニテ以爲聲モ今様ノ函張可成傳哉
 此藏物焼威シク由南都函人岩井永繁
 等語シタモ南都ニ遊又此器ヲ規覽セ
 事不能予モ南都ニ遊又此器ヲ規覽セ

迹ナルヲ及算テ頻ニ嘆サレト今當持前
 息スルニ絶タリ惜ベシサレト今當持前
 ヲ專トスル曹ノ浮張ハ布ヲ以テ最上ト
 スベシ。縮緬ヲモ用ベカラズ或好異シテ
 草ノ浮張ヲ用トナラバ車輪形ト云物ヲ
 彫テ可ナリ其ナケレバ害多シ又本文ニ
 鉢裏ニ犬滑ノ力草ヲ十文字ニ入ベシ請
 張延ガリ利アリトハ得タリ但十文字ヨ
 リモ井形組ト云物ニ入タルヲ利ナリト
 ス。十文字ハ堯ノ居リ不快試テ診ベシ亦

予南都ノ函人。岩井可光ニ尋シニ。犬滑草
ハ其姓至テ。シウクシテ強シ。浮張ノ列草
ニハ相應セリ。其外ニモ草ノ薄テ丸キニ
用テ。應ズル所ニハ。此犬滑ヲ遣ト云リ。傳
誌ニ。犬皮ノ別テ強キト云ハ。鹽ヲ喰ツ或ハ小
フ故ニ。皮ニ油氣有之故ナド見タリ。或ハ小
寺信正帶甲通ニ。浮張輪鉄附ト云物アリ。
是ハ戡弛ヲ自由自在スル爲ナリ。一應ハ
便利ニ似タレトモ。懸弛ニシテ何人用モ
ナキ事ナリ。頭上ニ物ヲ可入事モ煩シ。又

濡タルヲ乾ベキ爲トモナラニハ。鉢ヲ
打返テモ濟ベキ事ナリ。用ルニ不足斷ベ
シ。亦古請張ニハ故實アル事ニテ。製作モ
今様トハ異ナルモノ也。兜形頭高ニ腰炊
ナリテ。往古ト異リタルヨリシテ。請張モ
異ナリト思ハル鉢形ノ頭高ニ腰弘ニ成
故ナリ。其共載又今ノ浮張製作ノ事。南都函
人。岩井永繁。延重等ニ聞シニ。此物ニ造布
ハ。幅ノ廣大布ナド云ル物最善ナリ。西土

ノ産ニアリ。幅狭ハ繼矯ヲセサレバ難用。
續矯セル物ハ見苦キ而已ナラス。利用ニ
惡シ。又刺縫ハ其品アレドモ百重刺ト云
テ蜘蛛ノ巣ノ如ク繁ク刺事ナリ。布ハ其地合
ニ依テ重ニテモ三重ニテモ用ル事ナリ。
縮緬ヲ用ル事モ内ハ布ニテ表訂縮緬ニ
ニテ製セルモアリ。縮緬ハカリ幾重モ疊
懸テ織自テ文字ニナル様ニ幅ヲ違テ刺
縫タルハ最上ナリ。縮緬ヲ刺糸ハ緋縮緬

ナラバ。萌黄糸張合ヨシ。紺縮緬ナレバ。紺
糸ヨシ。此物ヲ製スルニ假刺ト云モ人ヲ
仕テ其間々ヲ本刺ニ刺ナリ。本刺縫終テ
假刺ハ悉拔捨ルナリ。其ナケレバ村縫出
來テ取合惡シ。夫ヨリ浮張塵ト云物ニ懸
テ粘糊ヲ引事ナリ。布ト布ヲ合ルニモ此
糊ニテ仕立ナリ。姫糊ニテ仕立タルハ表
へ通テ惡シト云リ。又予ガ徐林子ニ聞シ
ハ布ヲ合ルモ添ヲ引テ合ルナリ。其上ヲ

百重刺^{モ、エ、サレ}ニシテ。能^レ打^コナシテ仕立^ト言^リ。
兩^ハ様並^ニ試^シタル事^ナケレバ。孰^カ可^クナル事^ナ
ヲ知^ス。思^フニ函^工ガ所^ニ爲^ス。予^モ度々^ニ命^ジテ
新^ニ造^セセシ^ニ。鬼^角細^工ノ午^限ナル事^ヲ主
ト^シテ。其^ノ實^質ヲ失^フ。事^多ケレバ。此^ノ浮^張以
糊^合ル事^{。如}何^ニマ^アリケ^ニ覺^束ナ^シ。漆
合^ノ事^モ。函^工ニ命^ジタル事^ナケレバ。如^ク
何^{ナル}ラ^ニ不^レ診^{。又}此^ノ物^{。縁}草^{。刀}草^ノ根^附。
殊^ニ念^ヲ不^レ入^バ。細^工而^已美^事ニテモ。離^レ

マ^スキ^モノナ^リ。此^ノ縁^離テハ浮^張人^ノ實^用
空^ニ。克^ク々^々心^得ベ^キ事^ナリ。一^テ甲^曹製^作
ノ事^{。函}人^ガ所^ニ爲^ス答^ムベ^キ品^{。所}シ^テ。其^ノ差^一
別^書述^ヘキナ^レドモ。煩^アレバ爰^ニ贅^セ
ス。是^等ノ事^ニテモ推^察スベ^シ。亦^本文^ニ
縮^緬ノ請^張ハ延^易クトアル事^{。如}何^ニモ
其^モ有^ナシ。乍^去縮^緬ニハ限^ベカラズ。其^ノ
縮^布ノ地^合ニ仍^テ。不^レ定^事ナルベ^シ。又^其
製^作ノ品^ニテ不^レ緩^事モアルベ^シ。一^ノ條^ニ

難言事ナリ。何様其程相ニ隨テ。カ草ヲ入
耳縫ヲ用心スベキ事ナリ。如何様浮張ニ
テモ。其製廉相ナレバ。緩事勿論ナリ。縮布
ノ類ニテモ。草類ニテモ。浮張ニ製スル始
張伸スニ程相アル事ナリ。此コナシ廉未
ナレバ。縁縫ヨクカ草アリテモ。伸ル事勿
論ナリト可知。又金箔オシノ事。是ヲ製セ
シメタル事モナク。箔置タル浮張ヲ以テ
試タル事モナケレバ。如何ニヤ存ケテ其

聞儘ニテハ。箔ニテ織目塞リ。ナメテカニ
ナレバ。頭上スベルベキ歟ト思ル。イツレ
予ガ製セシメタルニハ。車輪形ト云物ヲ
穿ヌレバ。頭上スベル事ノ煩ナキナリ。草
浮張ト相似タル物歟。但草モ其品ニ仍テ。
亦一様ニモ難言。本文所々ノ文例得失ヲ
揚テ。是ヲ論スレバ。得失而已ヲ掬テ。實事
ニ所不及モアリ。考合シテ取舍アルベキ
モノナリ替ベシ

一 忍ヒノ緒付ハ古流ノ曹ニハ鉄鑲ニシテ根
緒鑲ト云ヘリ今ハ稀也強キ糸ヲ八ツ打ニ
シテ付ケ又ハ紫草ヲ卷クケニシテ付ヘシ
滑シ皮ニ麻草ヲ縫合シタルハユハリテ切
レ易シ緒付ノ留ヲ表ヘ顯シ蜻蛉ニ結ビ留
置ベシ若シ切レタル時付ケ安シ

一 貫曰。此物鑲ヲ用ル事。最古シ。西軍器考
圖式ニ見タル。藤杜崇道天皇ノ曹。忍緒四
所附何モ鑲也。石清水藏義家朝臣曹。忍緒

附鑲損無之。鞍馬寺藏義經朝臣曹。忍緒四
所附鑲ナリトアリ。又本田侯ニ存セルト
云ナル。佐藤忠信。此圖ニ三所附ニテ。鐵
鑲ナル由ハ見タリ。此忍緒附鑲ナルハ。緒
走ヨク利ナル事アリ。亦失ナル事モアリ。
試テ自知スベシ。假令古代ニ用タル事ニ
テモ。今様ニ應セサル事モアリ。下槩ニ思
ヘカラス。此鑲前章ニ逃請ル。小寺信正ガ
用カレバ。其事張付。此製ハ檜木ヲ以テ
腰卷鉄ノ裏。浮張付。此大ハ二順テ造リ。是

浮張ヲ取付テ和草ノ縁ヲ取彼根緒ニ
入ベキ程ニテ影關テ是ヲ銀ニ捻巡テ
止ル此根緒ニ根緒張ヲ持テ置テ成事ナリ
懸弛ノ浮張ハ根緒張ヲ持テ置テ成事ナリ
但此輪鉄附ノ浮張ノ製予ハ又存本文組
不取事ナリ前章ト可互見
糸ノ類或麻草縫合ノ類ハ甚惡シ和草卷
紵最上ナリ組糸ハ忍緒ヲ付ル時不剛
緒ノ付様ニ仍テ緒走惡キ中心アリ且
レ目モ早ク出来テ惡シ又中心ノアル根
緒ハ内外様一思合シテ弱キモナリ凡
纒ノ被リ様一餘ヲ以テ見則ハ緒走ナド
ノ論モ亦附替ル事不入様種々アリ時
思ベケレドモ纒ノ被リ様度事アリ其時
色々趣ニ依テハ被リ様此論アリ故ニ和
草卷紵最上ナリ試テ可知一隅素ヨリ鉢
近タル者ノ診ベキ所ニテアラス

一 忍ノ緒ハ組糸又縮ノクケ緒ハ用捨スヘシ
晒ニ布ヲ縮緬ヲ紅イ又ハ緝ニ染テ能程ニ
スベシ
丈夫ナレドモ煩シキモノナリ試テ自知
リ但三所附ヲ以テ傑ナリトス五所附ハ
ナキ事又此根緒三所附四所附五所附ア
ス或腰装ナドヲ好者ハ蜻蛉結ニタル締
ナリ事又此根緒三所附四所附五所附ア
付ノ板ノ表へ拔出シ留タルヲ利ナリト
ス或腰装ナドヲ好者ハ蜻蛉結ニタル締
ナリ事又此根緒三所附四所附五所附ア
リ但三所附ヲ以テ傑ナリトス五所附ハ
丈夫ナレドモ煩シキモノナリ試テ自知
スベシ
一 忍ノ緒ハ組糸又縮ノクケ緒ハ用捨スヘシ
晒ニ布ヲ縮緬ヲ紅イ又ハ緝ニ染テ能程ニ

卷クケニニテ長カ六尺五寸七尺五寸八尺
三所附四所付ニテ差別ヤ此事ナリ
一貫曰。忍緒ハ本文ノ通ガタコキ泰可ナリ。但布曝
卷新ヲ最上トスベシ。既而武隈叢話。續武
者物語ニモ。靦テ。秀忠公御所望ニテ。細川
忠興三齋御事也ヨリ。御召リ御曹ハ頭差上ラ
ル。則ナ角頭巾ノ角カドキハ下立タ夕タ形ナリ。其
曹ヲ土井大炊頭利勝披露ナリ。秀忠公御
意ニ入。御感不斜。則ナ越中守ヲ御前ニ召。種

種御褒美ナリ。時ニ御曹ニヲ練ヲ練ハ打緒ヲ
忍ノ緒ニ付タリ。忍ノ緒ニハ麻布ハカケ
緒ガヨキト聞召及ベリ。此打緒ガヨキカ
トノ御不審也。其時越中守懷中ヨリ。桐ノ
箱ヲ取出シ。其内ニ麻布ノ忍緒ヲ入候ヲ
差上リ。土井大炊頭ニ向テ。打緒付置候ハ。
御祝義迄ニ御座候。是ハ御肌ニ付候物故。
別ニ仕置。只今御前ニテ。付直ニ申候ト申
上ル。秀忠公御機嫌ナリ。此御曹ヲ大坂御

陳ニモ被爲召候ト云云。カレバ麻布忍緒
最上ナル事ヲ可考。高位ノ御上スヲ如此
況。單騎ノ武士ニ於テオヤ。又古ニ用知ル
所ノ見シハ軍器考圖式ニ於テ知ル。藤杖
藏崇道天皇兜。忍緒長五尺。白。緋。二色打交
巡。八分。鞍馬藏義經。曹。忍緒紅。唐打。本談議
屋藏義經。曹。忍緒紫。綸子丸。ケ。長七尺。南
帝兜。忍緒三所打交ト見タリ。又三所附。四
所附ノ事ハ。前章ヲ考知ベシ。亦忍緒ヲ鞞

ノ調緒ヲ用ル者モアリ。是モ可ナレドモ。
布曝ノ卷紵ニハ不及。或近頃太刀屋製ノ
數物ニ。鞞調ヲ真似タルアリ。是等ハ一向
麻物ニテ。用ルニ不足。試テ診ヘキ事ナリ。
或縮緬ノ卷紵ヲ用ル者アリ。是ハ上品也。
利用ニモ随分可ナリ。但小身ノ士ナド用
ベキ物ニアラズ。物具全備相應スルヲ可
トスベシ。縮緬ノ緒ヲ用ルハ。上品ノ相應
ナリ。都而此卷紵ト云物。其紵様ニ心得ア

リ。堅^ツラ^スズ。柔^ナラ^ズ。其程相アル事ナリ。
故ニ本文ニ云。能程ニ卷^ハ紵^ニシテトハ云
タルナリ。可考亦此忍緒ト云。號^ト古代ニハ
ナキ事ニテ。諸ノ古軍記物語等ニハ。悉^ク兎
ノ緒トアリ。其證ヲ引ニ違^ハアラズ。故ニ爰
ニ省キヌ。舞曲ハ嶋堀川夜討ナドニハ。忍
緒ト云。事ハ見タリト繁高ハ云ケリ。又武
田三代記ニ加々美四郎。城門ヲ指堅ノ。シ
バ^ハ忍^ハ緒ヲクツロケテ。士卒息ヲリ

繼^キタリケルト兎タリ。又今俗諺ニ。勝テ兎
ノ緒ヲシムルナド云事。是古キ詞ノ殘タ
ルナルベシ。亦當世ノ兎ハ。古代ノ製作ト
ハ異テ。請張モ出來テ。忍緒ノ實事ハ無ト
雖^モ古昔ニ用シ事ナレバ。故實ヲ貴テヤ。其
名ヲノミ此曹ノ緒ニ。移シケニ詳ナラズ。
又此物長ノ事ハ。出本文タレドモ。是ハ其
大^ニ緊ナル所ヲ云タルナリ。其人ノ大小或
兎ノ搦^ハ様ニテ。其尺^ハ竅^ナキ事ナリ。其人ニ

テ可_レ定_ル事ナリ。但_レ番具足ノ數物ナドノ類
ハ。三_ノ所付ニシテ。其尺ヲモ可_レ定_ル置_ルナリ。其
尺合本文ノ趣ヲ替_ヘベシ。委ハ別記ニ載ス
ルモリナリ

一類當_ル事猿類ヲヨシトス面頰ヲ用イハ鼻
ヲ搯ハツ_ル諸ニスヘシ鬚ヲ大イニ植タルハ
外見ヘスト云ヘリ涎懸ハ簾搯又ハ鎖ルニ
スヘシ小クシテ綿醫人午先ト胸ニ支ヘガ
ル心得アルベシ齒ノアル面頰ハ水モ吞難

ク言語不自由ナル失アリ零具頰ト呼モノ
汗シタメヲテ利ナリ甲搯ノ緒ハ幅二寸計
ノ細ヲ以テ付ベシ頭上ヨリ外レスシテ利
ア

一貫目。本文ニ頰當ト記セシハ。古目下頰
當ト云_フ物ヲ指_シテ頰當ト記セルナリ。又此
目下頰當ヲ。今俗ニ面頰トモ稱セリ非也。
古ノ面頰ハ。迺_チ軍器考圖式ナドニ著ル。小
笠原佐渡入道法雲藏。鉄面具ト云物ニテ。

面頰頰頰ヲ全ク夕ノ物ナリ。今俗ニ面頰
 ナ補スル物ノ事ニハ非。伊勢氏曰。面頰ハ
 鉄面ナリ。額ニテ懸ナリ。自ノ尻アリト説
 レタル是也。赤鳥記。又村井昌弘カ説ニ
 モ。面頰全キ物ヲ面頰トセリ。單騎要略被
甲辨ニ見ル
 又目下頰當ト云物ハ。目ノ下ヨリシテ。兩
 頰頰アルヲ目下頰當ト云。今面頰トモ。頰
當トモ。俗語ス
ナリ物又本文ニ猿頰ト云物。古ニ半頰ト
 呼ル物ノ一種ナリ。彼鐵面具ト云物ヲ流

ナリ。目ノ下頰當。半頰共ニ異形ヲ面相
 ヲ轉作シテ。温和ナルヲ隆武形ト云。烈キ
 ナリヲ烈勢形ト云。此隆武烈勢ト云。事曾
 義ナリ。極所ノ證文ニハ。此事ヲ記タルモ
 當集函。岩井可光ガ甲頰當圖品等ヲ見。頰
 隆武トモ云。ベキ形。出雲守宗外。宗行。宗重。
 吉重。宗忠。宗繩。宗光。宗政。宗則。宗時。宗安。義
 弘。義紀。義則。義長。高義。義保。義通。義道。勝義。
 信家。信綱。負宗。房宗。信吉。房則。康重。成重。成
 國。成進。意國。國近。宗則。重則。宗久。吉久。吉道。
 吉負。信忠。勝光。房信。十ノ下ノ作。有之也。又
 烈勢ト云。景家。宗光。信康。信家。氏家。吉久
 時宗。益成。重景。家宗。光信。康信。家氏。家吉。久

義則。宗。泰。國。重。宗。義。和。道。高。義。大。隅。守。宗。安。義。
負。家。宗。家。宗。信。和。道。高。義。大。隅。守。宗。安。義。
烈。面。相。是。等。其。差。別。大。繁。相。分。也。其。外。
ア。事。或。異。相。二。人。々。面。相。先。其。大。繁。ヲ。差。別。
ハ。勿。論。ナ。ル。ハ。差。知。久。ル。事。元。來。ハ。自。然。ト。
此。器。別。出。來。ヌ。ル。軍。用。ノ。答。モ。ナ。レ。バ。自。然。ト。
モ。入。眞。ノ。容。兒。ハ。不。製。答。也。希。有。事。ト。異。相。
テ。又。箱。類。モ。云。ナ。リ。明。珍。家。數。代。作。類。ノ。圖。
類。數。品。予。モ。所。持。シ。ケ。レ。ド。モ。其。中。ニ。無。之。
彼。明。珍。家。ニ。テ。云。隆。武。烈。祭。ノ。外。不。見。當。猶。
可。尋。リ。其。外。緒。使。ノ。金。物。ナ。ド。兵。至。テ。小。折。

釘ニシタル長鉄ニシタリ鑲ヲ打タルアリ
リ又太刀請ノ板トテ兩頬ノ上ニ小幅ノ
板鐵ヲ豎様ニ打タルモアリ其外鼻ヲ懸
弛ニシタルアリ打附ニシタル有鼻ヲ懸
ル事ハ上杉家ニテ初製スト云始冬陣ノ
時ハ打延ナリケレドモ筈陳ニ至テハ暑
モ氣凌ガタキ故是ヲ製スト云者モアレド
モ氣凌ガタキ故是ヲ製スト云者モアレド
審説ナリ又世説ニ一枚類ト云テ物イリ是
ハ不説ナリ又世説ニ一枚類ト云テ物イリ是
項ノ若ニソテ打而出己ニ不浪耗桐ナドニ
者ナリトソテ打而出己ニ不浪耗桐ナドニ
其種目鉄カ異ヲクテ出テ多ハ一打出面ニ打テ

細工ナリ予ガ及見タル物ニモ肉洞南蠻
形ノ鉢ナド打出ニシタル物ヲ見當タリ
南都函人岩井可光。岩井永繁。岩井延重等
ニ見シノテ其細工ノ事ヲ問答セシニ是
等ノ細工ヲ見テ函人等奇ナル哉妙ナ
哉今ヤ南都ナドニテ蒐心細工思モ不
物ヲ云レ至秘藏セル人多数アリト雖
不試シテ嘗不及論徒其細工ノ妙ナ事ヲ
讀レ己ナリ予ハ此物ニ所疑アリ予ガ
著料ニセルヤ否ヤト尋問人アリ予ガ
アリ得テ予ハ是ヲ不用ト論ヲ述モ有
何採下問答アル器ニハ奇ヲ現シ亦根尾
正信ガ細工ニモ稀ニハ奇ヲ現シ亦根尾
ア其實正ヲ分ハセズニ見此是別ヲ論
雖其實正ヲ分ハセズニ見此是別ヲ論

セシハ全ク嘘辭ヲ儲ルニ似又文飾ノ爲ニ
タリ能ク識テ人ニ尋ベシ似又文飾ノ爲ニ
打出置物彫上鑑等種々様々ナリ亦本文
ニ鬚ヲ大ニ植タルハ外不見トアルハ得
タリトスベシ鼻ノ下頤ナドニ髭ヲ植ハ
威相ノ爲ナレバ取捨案アルベシ或髭ヲ
植事ヲ嫌テ畫鬚トテ時繪ニシタルアリ
又齒ノアルハ是モ威相ノ爲ナレバ舍ベ
キニモ非短齒ナド惡カラジ亦彼半頰ニ
モ是別アリテ兩頰張出テ頤ノ短ヲ媿頰

學管見ナレドモ十界画。後三年合戦画。異
本保元物語ナドニ半頼ヲ懸タル者アリ
此保元物語ニ半頼文宇ハ儘讀ベシ假名ナカ
シタリ是ハ誤ナリ又参考太平記山門攻
所著ノ權室記ヲ也條ニ熊野八庄司共畧指ノサキニテ鎖リ
父ル籠手。隨當。半頼。膝鎧。透處ナク下搦ニ
裏ツレタレ事カラ下見タリ亦目下頼當
ハ同書大渡山崎等合戦條ニ野木與兵
衛入道頼玄トテ畧桐丸上天梯繩目ノ

大鎧スキ間モナク著ナシ獅子頭ノ虎ニ
目ノ下ノ頼當ニテトアリ亦頼當トハカ
リ呼ビシハ同書細川清氏討死條ニ相從フ
兵三十餘騎モ或ハ頼當ヲシテイダ虎
ヲモ著ス明德記河崎帶刀ト云者小次郎
ガ上ニ落重リ甲ヲ取テ投ノケテ頼當ノ
外レヨリニ刀差テナド見タリ竝考ニ
勿論此物ヲ軍衆悉著シタル事古代ニ無
之後三年合戦画。一谷合戦画ナドヲ覓ニ

素面ノ者多古軍記物語等ニモ素面ノ者
多ケレバコソ或半頰或目下頰當ナドヲ
著タレ事ヲ希ニハ批揭セシナリ其外百餘騎ナト軍談ニ直曹ノ事ハ名所之卷愚評替アルベシ
可辨亦近代トテモ素面ヲ好タル者アリ
北越軍記續武者物語ナドニ出タリ是等
ノ書ヲ往見テ贊ツ可診ニ縶ニ思ベカ
ラズ又涎懸ハ輕使ヲ好ニハ家地附ノ鎖
ヲ可トスベシ此鎖甲胃下卷鎖著籠條愚

評南蠻讓テ可省ス但涎懸ニ用ニハ威下
入板物ハ便利ニアラズ但其人ニ仍テハ
一縶不用ニモアラズ可考亦本文ニ綿嚙
ノ先ト曾板ニ不支心得アルベシト云
ル事得タリトスベシ又此涎懸ト云ル名
ノ古代ニ見タルハ参考太平記ニ正行モ
眉間ノ直中涎懸ノハツレニ矢射ラレテ
トアリ案ヘシ或軍器考ニ涎懸トイフ物
今ハ頰當ニ綴レル物ナレド古ノ物ハ其

制異ナリシニヤ欽明天皇御時ニ頸鎧ト
イフモノ見エシヲ與多利加氣トイフ物
也ト釋日本書紀ニハ注セリト觀タリ此
頸鎧ノ事ハ日本書紀欽明帝紀ニ出タリ
但右軍器考ノ説ハ如何アルベキ予ガ愚
考アリト雖茲ニハ洩シテ予ガ所著述ノ
軍器考再評自用隨筆ナドヲ往見スベシ
又甲楯緒ノ事本文ハ趣可ナリ或平紐ニ
筋懸ニシテ頰當ノ外ニテ留右ノ方ニテ

自由ヲツケタルモ利ナリ又頰頂ニ結留
アハ是ハ自由不可付害アリ可考此今世
ニ甲懸緒ト云モノヲ古モ付タルニヤ其
證アリ廼前引タル明德記ニ左京太夫ノ
兵ニ河崎帶刀ト云者小次郎ガ上ニ落重
リ甲ヲ取テ投ノケテ頰當ノ外レヨリニ
刀差テ髪ヲ取テ引仰ケ見タレバ二八計
ナル若武者世ニ美ハナヤカ成リト記ア
ル文章甲ヲ取テ投ノケテ頰當ノ外トア

此三ノ類當ノ面ニ止ルヲ知ベシ左ニ
 ハ鐵面其目下類當半類ノトハ圖ヲ出シ
 又猶目下類當半類等ハ明珍家類當押形
 聚圖岩井家類當圖類數品アリ是等ヲ往
 見スベキモ人ナク昔神宮土手新宮
 齋行ハ四國巡行ニ出テ其
 重寶類ノ類ニ所ナク其
 不面類之圖也猶有異製
 向出スルハ其類ノ類ニ所ナク其



此圖ハ小笠原佐
 渡入道法雲ノ藏
 鉄面具也

同物品 但此形十云



折釘

半紙

是信家作十云

一貫曰目下類當ヨリノ四品公南都函工
岩井可光ガ家ニ取傳タルトテ類當聚類
數品模寫シタルヲ二冊與タリ其中ニテ
抜出爰ニ圖シ又此品類明珍家類當聚
圖等ヲ見ニ前ニモ如述緒使ノ金物折釘
ニシタルアリ長鉾ニシタルアリ銀ウツ
タルアリ折釘ハ十六代目義保ガ作十七
代目信家ガ作ニアリ義保信家ハ延徳文
龜ノ頃ナリ亦長鉾ヲ類ニ打タルハ信家

成重ガ作ニ見成重ハ永録ノ頃ナリ又願
ニ長鉾ヲ打タルハ宗介ヲ始トシテ數代
ノ作ニ多アリ又鑲ヲ類ニ打タルハ宗介
ガ作ニ數多アリ亦願ノ下ニ鑲ヲ打タル
モ宗介ガ作ニアリ此品通前又類ニ太刀
請ノ板ト云物ヲ打タルハ宗介ヲ始トシ
テ數代ノ作ニアリ是等ノ物ヲ造儲事ハ
僉飛ノ緒ヲ擲事ノ利用ニ作タル也
先太刀請ノ板ト云ルハ實名ニ非其用ニ

飛ノ緒ノ前ニコケ出事ヲ嫌テ設タル板
ナレバ實ハ緒使ノ用ナリサレド太刀請
ノ板トハ内飛ニ切込タル太刀此板ニ止
曹ノ緒不ナラ劔ト云意ヲ名呼シタルナリ此
板ハ唯緒ノ前へコケ出事ヲ止タル利用
ナリ鑲ヲ打タルハ此鑲中ニ飛ノ緒ヲ引
通留ベキ料ナリサリナカラ所此引通煩
シク利用ニ關攸アリト可憇長鉾ハ太刀
請ノ板ノ利用ニ等但緒ヲ纏テ入違事ニ

アレハ太刀詰ノ板ヨリモ利ナリ長鉾ニ
セルハ弛ル事ヲ嫌テナリ又頤ニ打タル
ハ緒ノ結留前ニコケ出事ヲ嫌テナリ此
鉾ヲ長スルモ結目ナレバ緩重モ懸ニ依
テナリ元來ハ遺頤ニ造タルニハ此鉾ヲ
打ニ不及ナレドモ古作モ用心ノ爲ニヤ
遺頤ニ此鉾ヲ打タル數多アリ此物遺頤
ニ作ハ頤ヲ兩計タル緒ノ通ヲ分上ヘコ
ケ揚事ヲ嫌テナリ可考折釘ニシタルハ

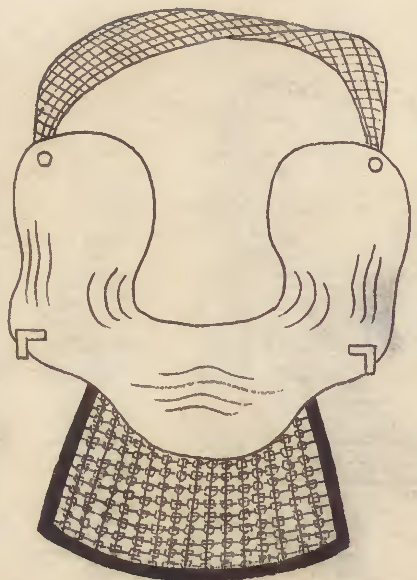
泰利用ナルモノナリ勿論緒前ニコケ出
煩ナク亦入違テ終タル時弛ル事ナク漸
緒ノ留程ノ大サニシテ長鉾ヨリモ邪魔
ニナラズ可ナリ素ヨリ折釘ヲ上ニモ下
ニモ自在ニ旋様ニ製タルヲ全利トス折
釘ノ鍵ヲ其留度方ニ旋スル事自在ナレ
バナリ是等ノ事兎ヲ被ル事ニ實意ヲ盡
試ハ得失自然ニ分明ナルヘシ頤ニ依テ
折釘ニ懸モジリ本緒ニクバラセテ標ハ

頰^{カク}出^デテ固^カア^リシキモアリ頰^{カク}喋^シテ言語障^シ
モアリ其器物ニ仍^シテ一^ニ槩^ニ難^シ述^ス試^シテ自^ラ
知^ルズベシ又鼻^ヲ懸^テ弛^ニスル事前三^モ如^シ
演^シ異^ニ種^{アリ}宗^介ガ作^ニ鉾^留アリ蝶^番ア
リ懸^テ弛^{アリ}後^ノ作^人共^ハ云^ニ不^レ及^ク様^々
ナリ其^カアレバ上^杉家^ニテ鼻^ヲ懸^テ弛^ニ和^シ
製^シタルト云^シ説^信シカ父^ニ此^上杉^家ニ
ニ初^ニ製^セテ出^シタリ云^フ説^祖ナリ所^ニ上^杉家^ト計^ス
既^ニ而^前出^タリ互^ニ見^スベシ所^ニ上^杉家^ト計^ス
アリテハ不^レ詳^トモ統^武事^上杉^ト指^セセ

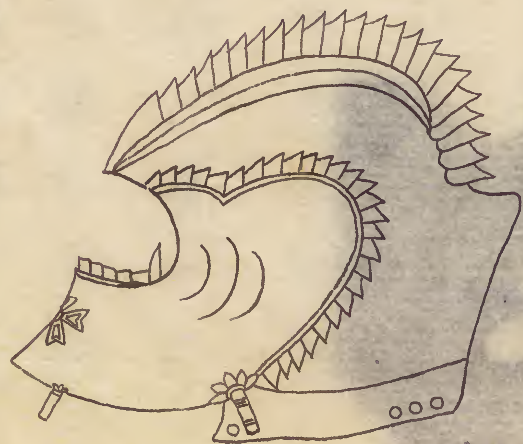
謙^信家^ノ事^ヲ盛^ナリトスレバ是^ヲ指^シタ
ル成^ベケレト宗^介ガ作^頰ヨリシテ蝶^番
ナド^{カク}膝^{アリ}ハ彼^ノ説^信ズベカラズ又植^髭
ノ事^是モ古^代ニ觀^ル初^代宗^介ガ作^目下^頰
當^ノ品^ニ上^口縁^ニ小^穴數^多アリ寔^植鬚^ス
スベキ料^ノ完^ナリ其^外作^頰ニ此^穴アル
モ有^ナキモアリ昔^ヨリ定^{タル}事^ナシト
診^ベシ亦^齒有^無ノ事^是モ定^{タル}事^ナシ
元^祖宗^介ガ作^ニ無^齒アリ上^下ノ齒^完ア

宗清が作す下齒計アル有ナキアリ宗
行が作す上下ノ齒全アリ宗益が作す下
齒計ニ述テ牙アルモ有、如斯初代ヨリ四
代目迄作スル此差別アリ況後世ノ作
ニ於テ亦マ明珍家譜録ヲ以テ考ニ初代宗介
ハ永久ヨリ承元迄ノ人ト見、四代目宗益
ハ天徳ノ頃ノ人ト見レバ上下齒ヲ作儔
ニ造、或牙ナド拵ル事傳キヲ可識也又十
代目宗安が作す上齒計ニ牙ヲ作タル有

替ベシ是等ノ齒ハ圖品ニテ所規ナレバ
以テ何造タル乎雖不知以テ今案ニ昔トテ不
可異金銀焼附真鍮銅四分一赤銅ノ品定
タル事ニハ非、猶克識タラニ人ニ尋ベシ又
此物ノ品類既前ニ掲タル如種々採々ナ
レドモ所詮單騎獨夫ノ所用ハ便利ナル
以テ物可トス異相ヲ好テ實ヲ勿失事能々
惟惹アルベシ左ニハ今世ニ所用扱粗
ナル品ヲ顯テ幼學ノ備使覽モノナ



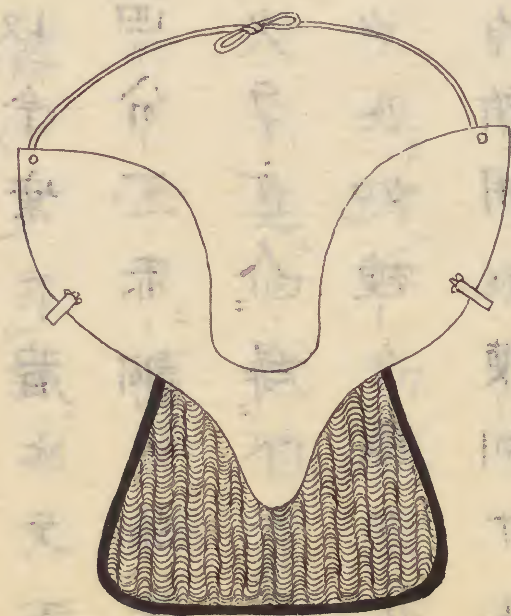
猿
頬



蛇
頬

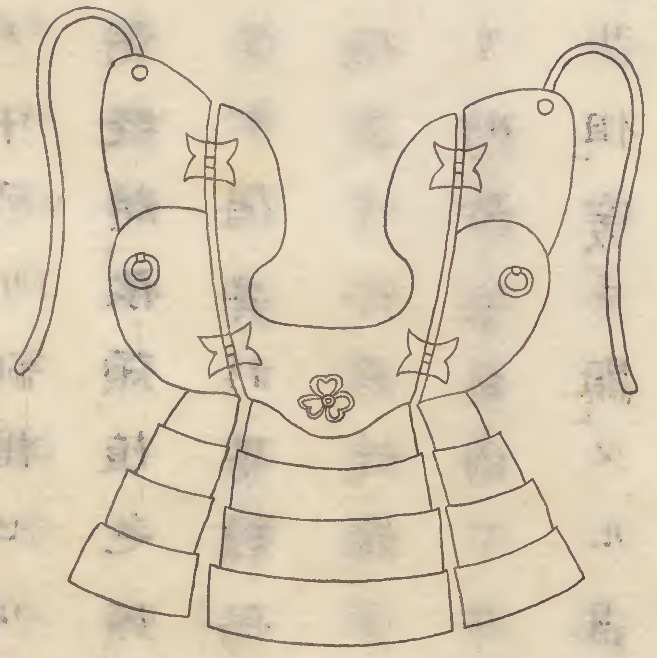


燕
尾
頬



燕
尾
頬

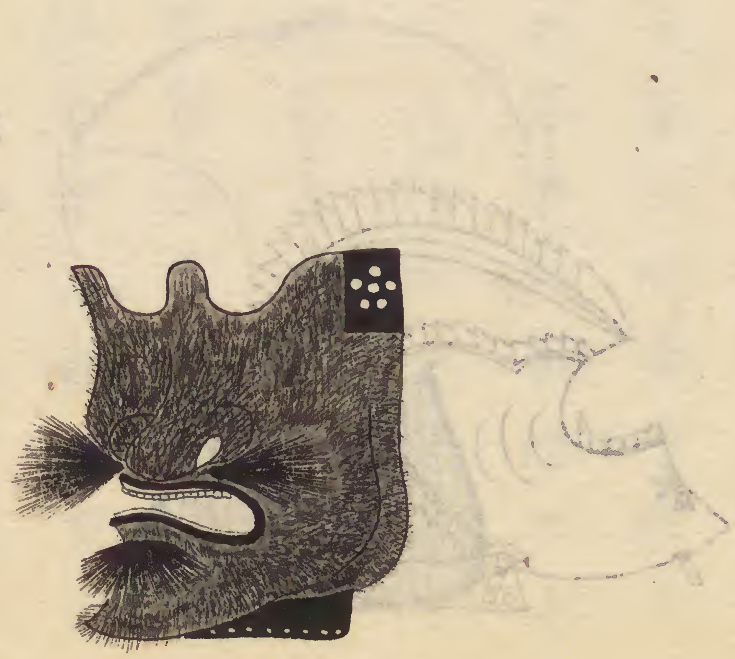
下帖類... 新出... 此... 其... 一...



天狗類



植毛類



一貫曰右七品ノ品ハ大塚徐林子所藏ノ
圖類ノ中ヨリ鈔撮セルモノ也予モ蛇類
鷲尾類。蛟類。猿類。植毛類。等ノ品ハ正物ヲ
規タリキ猶異形異類掲テ世ニ違アラズ
餘ハ推テ可診又蛇類ト云ル物ノ形岩井
可光ガ明珍家聚圖ニモ出タリ即信家作
トアリ但爰ニ顯タル品トハ大同少異ア
リ彼品ト互見シテ知ベシ
一貫目件々所言或以鐵面具面類ト云目

下類當ヲ以テ面類或類當其喚以類當半類
トモ云彼是混雜ニテ不明予ガ所述モ大
槩通俗ニ順事ナレバ是又其文章ノ放言
ニ任テ紛雜セリ是ヲ取分テ云則ハ面類
類。願。全備ナル物ヲ面類ト呼是鐵面具也
購ヲ面類ト呼ハ童語ニ似タレトモ對語
ニシテ面相全備ナルユベニ面類ト喚或半
首ト云ル物近世額金ト云ル物亦目下類
當半類ト云ル類ニ對呼ニテ面類ト云ト
知ベキ又目下ヨリ類願鼻完ヲ目下類當

通志問答卷第三甲田上卷十三終

第一十... 第二... 第三... 第四... 第五... 第六... 第七... 第八... 第九... 第十... 第十一... 第十二... 第十三... 第十四... 第十五... 第十六... 第十七... 第十八... 第十九... 第二十... 第二十一... 第二十二... 第二十三... 第二十四... 第二十五... 第二十六... 第二十七... 第二十八... 第二十九... 第三十... 第三十一... 第三十二... 第三十三... 第三十四... 第三十五... 第三十六... 第三十七... 第三十八... 第三十九... 第四十... 第四十一... 第四十二... 第四十三... 第四十四... 第四十五... 第四十六... 第四十七... 第四十八... 第四十九... 第五十... 第五十一... 第五十二... 第五十三... 第五十四... 第五十五... 第五十六... 第五十七... 第五十八... 第五十九... 第六十... 第六十一... 第六十二... 第六十三... 第六十四... 第六十五... 第六十六... 第六十七... 第六十八... 第六十九... 第七十... 第七十一... 第七十二... 第七十三... 第七十四... 第七十五... 第七十六... 第七十七... 第七十八... 第七十九... 第八十... 第八十一... 第八十二... 第八十三... 第八十四... 第八十五... 第八十六... 第八十七... 第八十八... 第八十九... 第九十... 第九十一... 第九十二... 第九十三... 第九十四... 第九十五... 第九十六... 第九十七... 第九十八... 第九十九... 第一百...

